

**平成31年度**  
**劇場・音楽堂等機能強化推進事業**  
**(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)**  
**成果報告書**

|               |                 |      |
|---------------|-----------------|------|
| 団 体 名         | 公益財団法人豊田市文化振興財団 |      |
| 施 設 名         | 豊田市民文化会館        |      |
| 助 成 対 象 活 動 名 | 人材養成事業・普及啓発事業   |      |
| 内定額(総額)       | 1,784           | (千円) |
| 公 演 事 業       | 0               | (千円) |
| 人材養成事業        | 791             | (千円) |
| 普及啓発事業        | 993             | (千円) |







## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

| 自己評価   |
|--|
| 社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。  |
| <p>【とよた演劇ファクトリー】</p> <p>豊田市は、地理的な条件で公演の際に市外からの集客が少ない特徴がある。それを改善するためには、魅力ある公演を発信する必要がある、舞台発表と美術展示の交流・連携といった相乗効果を最大限生かせる人材育成が新たな施設ミッションとなった。そのため、総合舞台芸術である演劇の演出家の育成とその多様な演出に対応できる表現者の育成に取り組んだ。事業では演出コースと役者コースに分けて募集をかけ、それぞれのコースに特化した座学を実施した。その中では、本事業の特徴である小学生向け戯曲講座とシニア世代を公募したまぢめぐりのワークショップを実施。さらに実践として修了公演では「マクベス」を公演。同じ脚本で演出の違いを見せる方法は、観客からの評価も高く、演劇ファンの裾野拡大につながった。</p> <p>【文化活動者派遣事業】</p> <p>豊田市では、第2次豊田市文化芸術振興計画の基本施策に「文化芸術と教育・福祉・観光分野等との連携強化」を謳っている。これを受け、単にホールの来館者のみにアートを届けるのではなく、誰でもアートを享受できる仕組みが必要となり、ホールの社会包摂的機能の強化が求められている。そこで当財団では、ホールに来館できない次世代を担う子ども達に、アートとの出会いやアートの力を届けるため、小中学校や特別支援学校へのアウトリーチ事業に取り組んでいる。その結果、平成31年度は、ホールへ足を運べない人や文化芸術に触れる機会のない人への機会提供として65校実施。そのうち、アーティストによる本物の演奏や楽器に触れることによる感動の共有として6校実施した。</p> |
| 助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。   |
| <p>【とよた演劇ファクトリー】</p> <p>豊田市では、様々な文化・芸術活動の発表機会を提供することで、活動者の裾野拡大を図るとともに、参加者の交流を促進し、活動の活性化を目的とした市民参加型アートプロジェクトを実施している。この事業に演出コース受講生が主宰する劇団が参加し、自ら脚本・演出を手掛けた公演を実施した。また、この公演には、役者コース受講生が出演し、地域の文化芸術活動に参加するなどファクトリーで学んだことを実践している。</p> <p>【文化活動者派遣事業】</p> <p>本事業は、障がい者が表現活動などを通じて自信や達成感を持ち社会参加を促進する一助となることを目的に、豊田市内の小、中、特別支援学校に募集をかけ、希望する学校にアーティストを派遣した。平成31年度は、特別支援学校等6校にアーティストを派遣。体験プログラム内容は、宝石ビズケット、飛び出す絵本、舞踏体験、和太鼓体験、箏や尺八などの三曲体験を実施し、児童の表現力や新たな可能性を引き出すことができた。</p>  |

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

#### 【とよた演劇ファクトリー】

目標・指標設定の考え方：本事業は平成30年度より実施しているため、要望書作成時には事業実施中であり、根拠となる数字がない。そのため、主催者の期待値として設定した。

指標の測定方法：参加者満足度・継続度・観客の満足度については、事業終了時にアンケートを実施。他参加度については、受講生に口頭で調査した。

指標の達成度：

〔受講生〕 ※事業終了時のアンケート結果より算出（回答人数：演出コース5人、役者コース21人）

参加者満足度

演出コース：参加満足度70%（目標） → （結果）60% （3人が満足と回答）

役者コース：参加満足度70%（目標） → （結果）100% （21人が満足と回答）

継続度（継続意志）

演出コース：次年度継続参加60%（目標） → （結果）40% （2人が継続意志有）

役者コース：次年度継続参加60%（目標） → （結果）67% （14人が継続意志有）

他参加度

演出コース：他公演参加60%（目標） → （結果）33% （5公演に脚本・演出で参加）

役者コース：他公演参加60%（目標） → （結果）27% （5公演に出演）

〔観客〕 ※事業終了時のアンケート結果より算出（回答人数：235人）

修了公演満足度60%（目標） → （結果）75% （175人が満足と回答）

#### 【文化活動者派遣事業】

目標の考え方：豊田市が策定した第2次豊田市文化芸術振興計画より、基本施策1「多様な鑑賞・体験の機会の拡充」より設定。

指標の根拠：上記の振興計画より令和3年度参加者数が5,500人と設定されているため。

測定方法：各校派遣後の報告書と児童・生徒に対するアンケート結果より。

目標の達成度：

〔全体〕 派遣校数65校、以下項目2～4はそのうち項目に該当する内訳

1 普段なかなかホール等へ足を運ばない（運べない）人、文化芸術に触れる機会のない人への機会提供  
→65校実施

体験プログラム内容：和太鼓、日本舞踊、三曲、三味線、飛び出す絵本、声楽、宝石ビスケット、学芸会指導など

2 アーティストによる本物（生（ナマ））の演奏や楽器に触れることによる感動の共有  
→6校実施 体験プログラム内容：弦楽合奏、声楽など

3 個人が認められ、お互いを認め合う個性の尊重や差別、偏見のない地域社会への貢献  
→27校 体験プログラム内容：俳句、コミュニケーションワークショップ、学芸会指導、和太鼓など

4 社会的弱者と言われる人々が表現活動などを通して、自信や達成感を持ち社会参加を促進する一助とする  
→6校 体験プログラム内容：宝石ビスケット、飛び出す絵本、舞踏体験、和太鼓、三曲など

指標の達成度：

〔参加者数（参加児童生徒数）〕

目標（年間）和楽器体験3,500人/アーティストが学校へやってくる1,500人/Dance is Freedom 100人

結果 和楽器体験2,455人/アーティストが学校へやってくる2,001人/Dance is Freedom 57人

〔全体満足度〕

目標90%以上

結果90%（回答数25校）

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

#### 【とよた演劇ファクトリー】

##### 【計画】

事業期間：令和元年5月から令和2年2月までの毎週1～2日活動（通算約60日）

参加者：演出コース定員4名、役者コース定員30名

修了公演：1公演につき150名（2公演実施予定）

収支予算：3,517,000円

##### 【確定、実績】

事業期間：令和元年5月から令和2年2月までの毎週1～2日活動（通算60日）

参加者：演出コース6名、役者コース26名

修了公演：1公演目183名、2公演目239名、計422名

収支決算：3,745,437円

#### 【文化活動者派遣事業】

##### 【計画】

事業期間：①和楽器体験（小中学校対象）年間延べ40回

②アーティストが学校へやってくる（小中学校対象）年間延べ30回

③「Dance is Freedom」～あなたがそこにいるだけでダンスは生まれている～

（小中学校特別支援学級対象）合計3日間で10単位（45分×10回）

収支予算：2,776,000円

##### 【確定、実績】

事業期間：①和楽器体験（小中学校対象）年間延べ33回

②アーティストが学校へやってくる（小中学校対象）年間延べ32回

③「Dance is Freedom」～あなたがそこにいるだけでダンスは生まれている～

（小中学校特別支援学級対象）合計2日間で4単位（45分×4回）

収支決算：1,805,835円

※事業計画時より事業期間、事業費に変更があった。理由は以下のとおりである。

①これまで学校の活動希望日を優先してきたことで講師に派遣日数の多さで負担をかけていたが、その見直しを図り、調整のつかなかった6校の申請を断った。またそれに伴い、楽器等のレンタルも減ったため、事業費が減額となった。

②講師料のウエイトが高い「Dance is Freedom（舞踏体験）」の申込み校数が想定よりも少なかったため、プログラムを組み直し、派遣日数を減らした。それに伴い、事業費も変更となった。

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

#### 【とよた演劇ファクトリー】

##### (1) 本事業運営のキーパーソン

###### ① プログラムディレクター：鹿目由紀（劇作家・演出家、劇団あおきりみかん主宰）

本事業のプログラム構成や講師の紹介、演出コースの指導、修了公演の監修などを行う。

経歴：2010年第16回劇作家協会新人戯曲賞、若手演出家コンクール優秀賞（2回）、第18回松原英治・若尾正也記念演劇賞など多数受賞。日本劇作家協会東海支部・支部長（2020年3月まで）、日本演出者協会会員。

###### ② 講師・スタッフ：座学の講師から修了公演のスタッフとして携わる

舞台監督：岡田保（演劇組織 KIMYO）、音響：正木隆（有まさき）、照明：横井勇士（JET株）

##### (2) 連携団体

①とよた演劇協会：地元演劇人を中心に組織された協会。本事業修了後に受講生が自主的に活動するうえで、協会事業に参加したり、連携したりするなど受け皿的な存在として連携していく。

②石黒秀和（とよた演劇協会代表）：地元演劇人の代表的存在。本事業の立ち上げから参加し、講義も請け負う。講義を通じて受講生とつながりを持ち、自身が主催する事業にも参加を呼び掛ける。

③とよた演劇ファクトリー実行委員会：本事業の運営に助言やアドバイスをする委員会。当財団が過去に実施した演劇事業の参加者などで構成し、市民の意見を取り入れながら進める。

##### (3) 安全性確保の取り組み

講義の中で、舞台基礎講座や修了公演会場下見などを取り入れ、舞台の安全面について基礎的な知識や情報を伝えている。

##### (4) 人材養成の企画内容、芸術性

①公演の工夫点：同じ台本を複数の演出担当が演出し、演出の違いを観客が楽しむ公演を実施。

②公演の特徴：受講生（市民）が1問学んだ成果を発表する場として、受講生の自主的な稽古・演劇内容を尊重する。

##### (5) 人材養成の企画の特徴

①新たな取り組み：全国的にも珍しい演出コースを設けた。

②講師の中心的な存在：鹿目由紀（劇作家・演出家、劇団あおきりみかん主宰）

③人材の確保：修了生は「文化ボランティア」として登録し、市や当財団主催事業に参加する。

#### 【文化活動者派遣事業】

##### (1) 連携団体

当財団は、豊田市内の文化団体の事務局をしており、約200団体・4,000名が会員として登録している。その会員の中から、本事業実施の趣旨や派遣先の学校の事情、ワークショップのノウハウや派遣者の確保などが可能な団体（個人）を募集して実施している。本事業を通じて、文化団体の活動の幅を広げるとともに、地元文化の伝承や地元文化団体の紹介につなげている。

##### (2) 普及啓発の企画の特徴

①人材育成：本事業の前身である「とよた演劇アカデミー」を10年実施し、その受講生を活用して「学芸会指導」の指導者として派遣している。

②コーディネーター：（一財）地域創造に2年間、当財団職員を派遣しそこで得たコーディネータ力を本事業で活用する。

③人材確保：上記地域創造派遣期間中につなげたアーティストを招聘し、舞踏体験を実施。



## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

### 【とよた演劇ファクトリー】

#### 〔地域の文化活動への参加〕

受講生のうち数名は、ファクトリーで学んだことを生かし、地域の文化活動に自主的に参加している。

#### 《演出コース》

- ・当財団主催事業で劇団栞ちゃんのしおり（演出コース受講生主宰・演出）の公演を実施。
- ・市主催事業「とよた市民アートプロジェクト」で劇団栞ちゃんのしおりの公演を実施。
- ・長久手市文化の家主催「劇王」に脚本・演出としてノミネート。
- ・長久手市文化の家主催「アートスクール発表会 戯曲セミナー」優秀短編戯曲上演会に選抜（新型コロナウイルス感染対策のためイベント中止）

#### 《役者コース》

- ・当財団主催事業で劇団栞ちゃんのしおり（役者コース受講生所属）の公演に出演。
- ・市内他劇団の自主公演に役者として出演。
- ・市主催事業「とよた市民アートプロジェクト」で劇団栞ちゃんのしおりの公演に出演。
- ・あいちトリエンナーレ 2019 連携企画事業「ハイブリットブンカサイ 2」の朗読劇に出演。
- ・当財団・とよた演劇協会共催「第4回とよた演劇祭」に出演。

### 【文化活動者派遣事業】

#### 〔事業ノウハウ〕

平成14年から日本の伝統文化に触れる機会の提供を目的に、市内の小・中学校に当財団登録文化団体を派遣している。その事業で得た学校とのつながりや打ち合わせ方法、授業の組み立て方をもとに、新たなプログラム（俳句、飛び出す絵本、弦楽合奏、宝石ビスケット、声楽、学芸会指導、コミュニケーションワークショップ）を企画し派遣している。

また、学芸会指導、コミュニケーションワークショップにおいては、ファクトリー前身事業であるとよた演劇アカデミーの修了生を講師として派遣している。アカデミー修了後、ファシリテーター養成のための研修会を実施し、その経験を活かし学校に派遣している。演劇事業修了後の活躍の場を提供するとともに、地域貢献事業である本事業において地域とアートをつなぐ一員として活躍している。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

【とよた演劇ファクトリー、文化活動者派遣事業】以下共通組織のため、まとめて記載。

実施組織（施設）：公益財団法人豊田市文化振興財団（豊田市民文化会館）

#### 【人材面】

当財団の職員数は、豊田市との調整により定数が決まっており、退職者が出た場合に、新たに職員を採用することになる。これまで、採用人数がそれほど多くないことから、豊田市の広報誌に職員募集を掲載する以外は、あまり積極的な採用活動を行っていなかったため、人材獲得が難しい状況であった。

令和2年度より、民間企業の就職サイトに情報を掲載することとなり、広く採用情報を展開することができ、「文化活動者派遣事業」「舞台芸術人材育成活用・創造事業 とよた演劇ファクトリー」などの魅力ある事業を継続的に実施していくことで、当財団の事業に興味を持つ人材の安定確保につながると考えている。

研修についてはこれまで、平成24年に策定された「人材育成プラン」に基づき採用年数や職位ごとにファーストステージ（採用1～7年目）、セカンドステージ（採用8～10年目）及びサードステージ（主幹、副主幹）に分かれ研修を行っていた。平成30年度から職員の研修さらに充実させるため、「1～4年目研修」「5～7年目研修」「8～10年目研修」及び「係長・主任研修」と新たに研修体系を見直し、研修を通じて職員の研鑽や交流機会を増やすことで、組織を担う人材を継続的に育成している。現在の研修体系は、令和3年度で検証を行い、新たな研修体系につなげる予定である。

また、当財団では（一財）地域創造に職員を2年間×2回派遣。そこで得た全国文化施設の取り組みや地域創造の事業に対する考え方、組み立て方、アーティストとのつながり、事業実施の様子、実施後の評価などを派遣後に本市での事業に取り入れた。その結果、より先進的で効果の高い事業を企画し、自らコーディネーターとして運営している。

#### 【財務面】

当財団は、豊田市からの指定管理料、受託事業費、事業負担金及び人件費補助金を主な財源として運営している。それ以外に、会員受取会費（当財団の目的及び事業に賛同いただける個人、団体・法人からの寄付金収入）、当財団が管理している指定管理施設に設置している飲料水の自動販売機の契約収益（販売事業収益）、ホームページ及び文化情報誌の広告収入など、当財団独自に収益を得る取り組みを行っている。

このうち収益の大きなものは、飲料水の自動販売機の販売事業収益であるが、令和元年度は1,066万円余の収益があったが、平成30年度と比較すると600万円余減少している。これは、2回目の契約更新時に販売実績によって契約金額が見直され、初回の契約より契約金額が減少傾向にあり、今後も現状の利用者数がなければ減少が予想される。このため、飲料水の自動販売機に頼らない収益確保が課題であり、会員を増やす取組や企業からの協賛金を得る取組が必要となってくる。

令和元年度から始めた企業、団体及び個人からの協賛金で、当財団事業の公演チケットを親子にプレゼントし鑑賞機会を提供する社会包摂事業等の新たな取組にチャレンジすることや「文化活動者派遣事業」「舞台芸術人材育成活用・創造事業 とよた演劇ファクトリー」などの事業を継続的に実施していくことで、当財団の理解者、ファンを持続的に増やしていくことが、賛助会費や協賛金の獲得につながり、収益基盤の安定につながると考えている。